

中齋塾 東京フォーラム  
平成 26 年度 第 8 回講話

平成 26 年 9 月 13 日  
於 湯島聖堂

今日は詩吟の練習をする時、デング熱をうつす蚊がいたら大変だと思い蚊取りスプレーを 8 本準備して参りましたら、湯島聖堂は草刈をしていました。でも、しぶとく生き残っている蚊もいるでしょう。

私、生まれて初めて蚊をじっくり見ました。そうすると確かに縞々の入っている蚊がけっこう多いですね。

蚊のエピソードで、頭山満翁がひょいと浮かびました。頭山満さんが、けっこう年配のときに京都の料亭にいましたら、蚊がプーンと飛んできて腕に止まった。払うことなくずっと見て「充分に血を吸ったか、良かったね」と言いながら、庭へ下りて蚊を逃がしてやった。美女がその様子を見ていて、頭山翁に惚れたという話です。でも、今はデング熱媒介の蚊ですから大変です。一週間ぐらい死ぬか生きるかの思いをします。

石川忠久先生が大正天皇の漢詩詩集を出しました。これは新聞に紹介がありました。前々から先生が書きたいと仰っておりましたから、御本人の気持ちがこもっている本です。湯島聖堂の事務局の人に「湯島聖堂に先生の本が置いていないけれど、どうしたの？」と聞いたら、「まだ部数が少ないので奥に隠してあります」という話でした。

## 紹介書籍

『木内信胤語録』記録兼編集 三人会 株式会社警備科学研究所発行

木内信胤先生は、私が師匠と呼ばせていただいた唯一の方です。木内信胤先生が話をされたものを必死になって書きとめた速記録に近いものです。私は先生の話を生懸命にメモしたのですが、ダンボール二箱ぐらいになっていました。理事長ともう一人の方と三人で纏めた『木内信胤語録』を久しぶりに見直しました。

その中に「ものごとは複雑に考えちゃ駄目ですよ。あっさりと考えるが良い。疲れるし、困っちゃうからね。はっきり分からないことで、世の中は動いているんですよ。だから、はっきり分かろうとしないでそういう態度がいいんです」と、この判断基準で考えると朝

日新聞の社長はこういう勉強をしておけば良かったのになと思います。

あとで申し上げますけれども、朝日新聞は読んだらつまらなかった。読売新聞は鬼の首を取ったみたいに書いていると思います。ということを目頭に申し上げて、恒例の質問に移ります。

## 恒例の質問

・8月は良い夏だったでしょうか。夏の間は比較的、嘘はつかなかったと思われる方は、どうでしょうか。

珍しく手を挙げない方がいる。嘘をついているとやっぱり心持ち良くないですね。

今回、朝日新聞の社長が頭を下げた。今頃になって、慰安婦問題の報道で間違っておりましたとしています。叩かれて謝罪をしていますから、後出しはみっともないなと思いました。朝日新聞は、嘘がばれた瞬間に謝れば良いと思ったのでしょうかけれど、ばれたという感覚がなかったんでしょうね。朝日新聞の記事を、ここぞとばかりに与野党が叩いています。「誤報ではない捏造だ」と政治家が言い出しています。朝日新聞もこれで変わっていくのかなという気がしています。でも韓国メディアは、朝日新聞擁護論と応援していますね。

・夏の間は、良い日があったと思う方はどうでしょう。有難うと言うこと、また言われることが多かった方、どうでしょうか。

ちょっと減ったかな。有難うございます。

・夏の間、運動を何かされましたか。自分にあつた運動を開発している、やり続けたという方はいますか。

ちょっと余分なことを申しましょう。私の住んでいる地域の行政から手紙が届いて、中を見ましたら「高齢者向けストレッチを無料で、ご案内申し上げます」というのがきました。めでたく前期高齢者になって家にいると何も運動しないでしょうから、高齢者向けのストレッチや体力測定をします。体に良いことをしましょうという事でしたので、ためらわず応募すると書いて送ることにしました。

動機は、今時の高齢者向けのストレッチや体力測定というのは、どんなことをやるのだろうかと思ひ参加することにしました。会社の道場で若い連中にその話をしたら、「わざわざ自分の体力を見せびらかしに行くのですか」と言われましたが、そうではなく素直にどの程度なのかを調べたいと思うので行くことにしました。

知らず知らずの内に、あちこちガタがきています。自分が得手だと思うものは強化させるけれども、得手でないものは、やっぱり衰えるみたいです。

今、私は足の専門医にかかっています。足の専門医が私を診断した結果、あなたはアキレス腱が硬くなっているからアキレス腱専門のストレッチをしてくださいと言われました。三ヶ月間やっています。確かに触ると硬くなっていましたから、自分で気がつかないところは知らず知らずの間に衰えていると思います。何か自分自身の体の棚卸をされると良いだろうという気がいたします。

・夕べでなくて、ひと夏の間で一度でも良い近未来のこと、明日のことを過去形でイメージして眠れた方。

ひと夏の間、赤城山で一人暮らしをしていました。一人暮らしの反省ですが、缶詰めはまだ良いのですが、そのほかの色々な食料の期限が切れていました。期限切れの即席ラーメンとか焼きそばは、野菜をたくさん入れて食べました。もう作り方は覚えました。家内と話したら「一人暮らしが出来る」と言われました。一人で暮らそうと思ってやっているわけではないのですが、一人暮らしの環境に慣れればやれるものだなと思いました。ただほっとくとネズミが出るらしく即席ラーメンの袋の端を齧っていました。でも問題があるのか、袋は食いちぎっていますが、即席ラーメンは齧ってない。体に良くないってネズミが分かるのでしょうか。私が食べ残した物は食べていますから感心します。コンビニで買うものも少し考えないといけないなと思いました。この間、コンビニに勤めていた人の言葉が、何の雑誌でしたか、紹介されていました。コンビニで売っているポテトサラダは7種類ぐらいの添加物が入っていて、入れるところを見ていたらとても食べられるものではないとのことでした。添加物は、ちょっと考えものだなという気がいたします。

### 長寿企業から見る日本の文化

以前、日本の千年企業は21社と話しました。日本は長寿企業であることは素晴らしいと感じますが、国によっては、長寿企業は恥ずかしいという考えの国もあるそうです。

インドのヨーガの聖人カリアップ師が、歴史に名前を残すのは恥じであるという考え方を持っていたと残っていますから、国によって皆それぞれ考え方が違うものだと感じます。

そうすると歴史に名前を残さないで、市井の人で消えていくのがよいのか、歴史に名を残そうとするほうがよいのか。これも人間が文化を考える上において大きなことだという気がします。

日本の文化について千年企業あたりから、いろいろ考えると日本のルーツはどうなっているのかと氣になっています。

この間、国立歴史民族博物館へ行って来ました。そこで弥生展が行われており、縄文時代の展示を見学してきました。

最近、考古学に関する本をいろいろ読んでいますけれど、ここ数十年で考古学の歴史が変わりつつあるという資料がかなり増えてきました。縄文時代の文化は、見直しをされる

べきだという証があちこちに出てきているようです。

例えば「漆（うるし）」ですが、一万三千年ぐらい前の日本民族は、漆をどう扱っていたかという痕跡があったとのこと。食料として漆の若芽や実を食べ、住居の木材として漆を使用していました。それから漆の工芸品も作っています。それは大陸に伝わっていったのではないかとわれてきています。以前は、大陸から朝鮮半島を通じて来たという考えでしたが、現在はひっくり返ってきているとありました。

近年は科学的に分析する手法が新たに開発されてきましたから、植物採取後の痕跡が残っているのが、分かるようになってきました。何となく楽しくなってきましたね。一万三千年前の日本の民族。ただ縄文時代としてあったのではなく、文明があり、文化がある。その集落の作り方が王国を作っていくのではなく、集落として存在していくという。これは文明論になるし文化論になっていくと思います。いわゆる欧米の文化・文明に関する考え方が根本から違ってくるのではないのでしょうか。日本は独自の文明が、一万三千年から六千年ぐらい前にあったと、だんだん実感をもつようになりました。あと百年ぐらい経つと日本独自の文明論、文化論が生まれてくる。そんな感じがして、とても最近それが楽しみでいます。

### 基本哲学「知足」

今日の新聞広告に、東大出身のお医者さんが魂について本を書いているという広告がありました。その中に「足るを知る」という考え方を持てば、人間は素晴らしい人生を生きられるという見出しでした。

「足るを知る」の思想は、本当に奥が深いという気がします。最近、肉体と魂との関係はどういうものだろうか、死んだらどうなるのだろうか。死んだら自分の魂はどこに行くのだろうか、死んだら真っ暗で何も分からなくなるのだろうか。誰でもが素朴に持つ疑問が渦巻いています。

「足るを知る」という言葉は、その人間の本質、生命の根源、そういうところに深く思いをいたすと、どこかでふっと、もっともっとじゃなくてここら辺でというのが出てくるという感じがしております。

輪廻転生で見始めると、それに関する本や資料も沢山あります。何となく信じたくなっている一番のベースは、木内信胤先生の息子さんが亡くなる時に一晚徹夜で話をされたとあります。人間は死んだ後でも対話はできるということを息子の木内考さんに言われています。死んでも対話はできる。先程の『木内信胤語録』の中に収録してあります。

何度も申し上げていますが、木内信胤先生が「死んだら真っ暗で何も無いというよりは、あの世、来世があると思ったほうが楽しかあないかい」という科白は、私は非常に好きでして、死んだら真っ暗で何にも無いっていうよりは、あの世があり、また亡くなった人と

会える、話が出来ると思ったほうが楽しいし嬉しい。嫌いな人に会いたいとは思いませんけどね。

唯識学は、中村天風先生の「ものの考え方を掘り下げる」ことによって唯識学がみえる。天風先生の言い方や、他の先生方の共通項が出ていて思うことは、肉体は何かということ。人間の元になるのは魂ですが、天風先生は「魂が着物を着ていると思いなさい」といいます。でも、肉体は魂が着ている服といいますが、それも何かピンときていません。魂がいつその肉体という着物を着るのか。お母さんがお腹の中に命を宿すということは、赤ちゃんになる気・エネルギーがある一定のお母さんのところへ行こうかな、どうしようかなと上のほうを動いている中で、このお母さんが良いやと選んで入るんだと、天風先生が言われています。現実になんかどうかは分かりませんが、そうあると良いねという気持ちにはなりました。ですから魂は存在しているなという気になっています。

魂と肉体との関係がみえてくる。魂も魂魄という言い方をしますから、天から来る魂と大地から出てくる魄と二つあるという感じが最近はしています。

お金だけでみると、天風先生の本を読んでいて面白いのは、ロックフェラーとお喋りをした時に、今の一番の悩み事はお金がいくらあるか分からない。こんなにお金があると管理しきれない、困ったとあります。

お金がたくさんあると困ったという話はけっこう聞きます。岩崎弥太郎の後を継いだ岩崎小弥太の話で、自分の屋敷の中を泥棒が入らないかチェックして歩く。朝がた起きると目が充血している。木内信胤先生が子供の頃に聞いたときに「金持ちなんて嫌だね、ゆっくり眠れないじゃないかと思った」と言っておられましたから、お金があると困るという話です。

お金がなくて困るという話は沢山まわりにあります。あってもなくても両方で困るんだから、やっぱり気持ちの持ち方で変わるのだと思います。

今の世の中は、ある程度のお金がないと生きていかれないのは確かだから、ほどほどにあると良いでしょう。ただ自給自足の生活を選ぶ人が増えてきているという感じはしています。知らず知らずの間に「足るを知る」ということが復活してきていると思います。

例えば、道教の中でどういうものがあつたか、仏教の中でどういうものがあつたか。そういう学問的な体系の中で見直しをしてみる。自分がもう少し欲しいとか、もうちょっと食べたいとか思う時に、ちょっと待てという気持ちができるかどうか。そこら辺がたぶん鍵だと思います。

質問します。

- ・私は毎日満足できるほど、お腹一杯ご飯を食べているという人有難うございます。いますね。
- ・いっぱい食べたいが、身体のことを考えて腹八分目にしようと努力している人これはちょっと多いな。有難うございます。

大会社の社長が料亭で何も食べられなくて、出るときに「先程あなた何も食べてないから、せめてチョコレートだけでもお腹に入れなさい」と女将に言われて、チョコレートを口に入れました。しばらくしたら、その人は心筋梗塞でひっくり返ってしまった。でも一命は取り留めた。チョコレートがお腹に入っていたので助かったという話の記憶があります。空っぽは駄目だろうけれども、腹八分目がよいのでしょうか。

お医者さんは、ちゃんとゆっくり落ち着いて時間をかけてお食べなさいとか、たくさん食べないで少しにしなさいと言います。常に空腹感で良いと思います。縄文時代の人は常に空腹感だったなあと展示会を見て思いました。縄文時代の人は、腹八分目がすごい贅沢極まりない生活みたいです。

お薦めは、腹六分目から七分目ぐらいです。腹六分目といたら「足るを知る」の世界に間違いなく立っていると思ってください。

今、基本哲学として「足るを知る」の入り口に皆様方は間違いなく立っています。「足るを知る」、じっくり考えるには、ちょうどよい時期にきました。

### 論語の視点

素読をされた大野参与は、完全に自分のものにされていると感じました。そういう読み方をしておられて、よいことだと思いました。

### 子路十三

【三】子路曰く、衛の君子を待ちて政を為さば、子將に奚をか先にせんとすると。子曰く、必ずや名を正さんかと。子路曰く、是れ有るかな、子の迂なるや。奚ぞ其れ正さんと。子曰く、野なるかな由や。君子は其の知らざる所に於て、蓋し闕如す。名正しからざれば、則ち言順わず。言順わざれば、則ち事成らず。事成らざれば、則ち礼楽興らず。礼学興らざれば、則ち刑罰中らず。刑罰中らざれば、則ち民手足を措く所無し。故に君子は之に名づくること必ず言うべくし、之を言うこと必ず行わべくす。君子は其の言に於て、苟もする所無きのみと。

孔子が、はっきり何歳というのは出ていませんけれど、当時 67 歳ぐらいであろうと記録があります。孔子と子路が、掛け合い問答みたいなことをしている。そんな気がします。

衛の国は王位継承争いをしている真っ只中であり、筋道が通っていない国には、筋道をまず正すところから、やらなければいけないと孔子が話しました。子路は、だから先生は自分の望む仕事に就けないのだと批判しています。

孔子は失敗の連続ですから、自分が総理大臣に就いた時も思うとおりに出来なくて、お弟子さんたちを代りに仕立てあげ、然るべき要職につけた。孔子の塾は、教育集団になっていったという流れです。孔子がそのときに置かれている情勢や状況、弟子たちがどうやって要職に就いてきたかをみていかないと、孔子の問答はみえてこないと思ってください。

子路曰く、「衛の君子を待ちて政を為さば、子將に奚をか先にせんとすると」

子路が「衛のお殿様が、この政治を孔子に全部任せると言われたときに先生は受けませんか？受けたらどういうことをしますか？」あんまり真剣な調子で聞いていません。私の感覚では、少しからかうような調子で、掛け合い問答が始まった。そういう感じで読んでいます。

孔子が「道理を正せ、名目をきちんとしなさい」と答えました。

例えば、先ほど貴方（会員）がフォーラムに入った動機を言われました。そのときに「生きるか死ぬかの思いをしたから、こういう人生の過し方がある」と。それは名を正しておるという風に聞きました。例えば、それが女道楽でどうにもならなくて「家から追い出され困ったので、ここで少し勉強したい」と言ったら、どこか他を探してくださいとなりますが、そういう事とは違っていました。

生きるか死ぬかのところを乗り越えて自分の人生は、やっぱり道理を極めていきたい。自分の人生を充実したものに、世の中のためになることをしたいという動機で中斎塾フォーラムに入って来られる方は、長続きするだろうと思います。ここで金儲けをしようとする人は入っても二、三回ぐらい来て直ぐ辞めますね。

「子路曰く、是れ有るかな」

だから先生には困った。またそう言うことを言うから、誰もついて来ないのです。やっぱり人間は実利だから、お腹が減っていたら何かあげなきゃいけないのでは？

孔子が答えて「野なるかな由や」

野蛮と言うより、野卑と言ったほうがピンときますかね。孔子は、「だからお前は駄目だ。もうちょっとものを考えなさい」とじゃれ合いをしている感じです。

「君子は其の知らざる所に於て、蓋し闕如す」

君子というものは、知らないことは知らないと言う。分からないことは、分からないと言う。分からないことを知ったかぶりして言わない。分からないことについて暫く考えて、または調べてそれから対応しなさい。知っていることを知っていると言うのはよいけれど、知らないことを知っているようにしてはいけなくて受けとめてください。

「名 正しからざれば、則ち言 順わず」

名目が正しくなければ、話の筋がとおらない。話の筋がとおらなければ、政治的にいろいろな物事、これは成功するわけがない。

ここはアベノミクスで考えればいいと思います。アベノミクスは第一・第二・第三の矢という言葉で言い出しましたが、言っている事とやっている事の乖離が少しずつ始まっています。一番目、二番目は、ちょっとずれている。三番目は、まるっきり違う方向に動いている。

「言 順わざれば、則ち事成らず」

従って、だんだんアベノミクスも駄目だ。アベノミクスは失敗という言論がメディアに出てくるでしょう。秋風が吹いてきた頃は、そうなるのではという言いかたを年の初めにしました。今、現実にはそういうメディアが増えています。暮れになって年を越す頃になれば、失敗という烙印を断定する人が出てくる。まだ本人はじたばたしています。消費税 10% というところがせめぎ合いだと感じます。

「事 成らざれば、則ち礼楽 興らず」

礼楽は文化です。

時代の流れでみると、安倍晋三総理大臣が生まれたことによって、総理大臣の経験者が副総理になる。それから自民党の総裁を経験した人が幹事長になる。今回、民主党に似たような動きが始まった。従来の政治の力学とは違う動きが始まっている。

安倍さんが駄目だというメディアそのものも、今回、朝日新聞が頭を下げたことによって国内外からかなり注目されています。日本は謝るときと謝った後の身の正し方、けじめのつけ方を朝日新聞がうまくやってくれれば、日本のものの考え方が根底から変わってくるという気がします。

「礼楽 興らざれば、則ち刑罰 中らず」

裁判で公平か、または真実かそうではないかと争っていた。実際のところ、なかなか分かりません。子路は片方の話だけを聞いて、断定して決裁をするが、誰も子路の決断にたいして異論は唱えなかった。これは人格が信頼するに足りるものだから、裁判した内容が国民に受け入れられている。

子路と孔子の会話を踏まえて考えると、今の日本の裁判員制度というのは似て非なるものだと感じます。裁判員がいるから信頼がおけるかどうか。プロの裁判官の自信がなくなって自分達に自信がないから代わりに権威となるものを作ろうとして、目くらましで作った制度だと私は思っています。

日本国内の根底から変わってくる兆しが、幾つも幾つも出てくるというのは、この「則



ち刑罰 中らず」というものにリンクしてきている。そういう感じがします。

「刑罰 中らざれば、則ち民 首足を措く所無し」

裁判が公平でなければ国民は手足をゆっくり伸ばしてのんびりすることが出来ない。不安ばかりが募る世の中だ。

「故に君子は之に名づくること必ず言うべくし、之を言うこと必ず行うべくす」

だから君子というのは何かしようと思ったら必ず有言実行です。言ったら必ず行う。そうすると信頼が生まれる。

「君子は其の言に於て、苟もする所無きのみと」

君子は有言実行で、軽はずみなことはしない。だから口先だけのことは言わない。自分が信じることを言う。

ここを読んでみると、じゃれあっている問答のような出だしですけど、やっぱり中身はきちんとしており、孔子は言うべきことは明確に言っています。それを論語の中に、お弟子さん達が収録、載録したのだと感じます。

## 時事評論

安倍さんが、なぜ登場したのか。それから今、日本の国はどういう状況に置かれているのか。外国とのおつき合いはどうなっているのか。世界各国はどういう状況なのか。そこから辺を一つのポイントで考え始めると、やっぱり歴史の縦軸が要ります。

縦軸を歴史で考えると日本民族は、一体どういう経緯で誕生して現代に繋がってきているのか。DNAはどうなっているのかということ縦軸で考える必要があります。

縦軸、横軸で考えるときに、新聞で自分が気になったものを並べて置いておく。それで縦軸と横軸がうまく修練されてきます。

そうやって考えてみますと、ここ2~3年国債の話をし続けたと思います。

「新聞を見る時に国債をみましょう」と言っています。国債は破裂寸前にきていると思っています。国債がおかしくなったら日本は崩壊です。元日銀総裁の三重野さんが「日本が破綻する前兆で国債の状況をよくみておくべき」と、かなり前から言っておられます。

今の国債は、日本の国の中に起きた癌細胞で相当大きく膨れ上がってきている。どこに転移するか分からない状況だと思っています。

ですから私が気になるのは、国債がいつ破裂するのか、破裂した後はどうなるのかとい

うことです。破裂しないで済ませられるかという点、どうもそれは無いと思います。

アベノミクスは国債を破裂させる方向に進んでいると感じます。国債が破裂したら、結果として出てくるのはインフレ、ハイパーインフレが当然起きます。日本は、べらぼうな借金をしています。借金を帳消しにするためには、ハイパーインフレを起こすのが借金帳消しの良い特効薬であると、大勢の方が様々な表現で言っていますが、国債が破裂するということはデフォルトです。デフォルトというのは借金踏み倒しです。国内外に対して日本は借金を踏み倒しますという。ハイパーインフレを起こして踏み倒したとはいわないけれども結果としてチャラにします。どういう方向で政治家が舵を取るのかといったら借金を明確に踏み倒すのではなくて、もうべらぼうなハイパーインフレを起こすから結果として返さないでいいという格好になってくると感じます。

これをこの間、私の関係している会社で話していましたが、80歳の顧問税理士さんが「子供の頃に、親が一生懸命に貯金をしてお金を貯めたんですが、親が怒り狂ったのを覚えている」と言います。その80歳の税理士さんが、「子供の頃に父親が一生懸命に貯金していたら、終戦直後にインフレが起きた。一生懸命貯めたお金が、使えないのではなく、使えたのですけれども、刻みタバコ1つしか貰えなかった。それで父親が怒ったね」と言っていました。でも今度起きるインフレは、そんなもんじゃないという会話をしてきました。

### 「物事は複雑に考えちゃ駄目」と「単純化して考えなさい」という判断基準

朝日新聞が失敗したら素直に謝る。今までは、誤報ですとはいうけれど、捏造しましたとはいわない。でもそれに近い表現をしています。日本人の心の中の根幹の部分の少しこれによって変わってくる。その入口に立ったという気がしました。

そこで木内先生の「物事を複雑に考えちゃ駄目」と「単純に考えればいいよ」ということになります。

素敵な女性をみたら、単純明快に自分の気持ちを言うといいですね。複雑に考えちゃいけないよと書いてあるので、女の子の口説き方と同じ。複雑に考えちゃ駄目っていうのは何にでも適用できるみたいです。夫婦喧嘩したら、先に謝ればいいですし、それから商売でも失敗したら謝って相手が悪いと思ったら、あなたが悪いという。複雑に考えないで単純化していくのが良いと木内先生は言われている。そう思います。

デング熱の場合だって、謝ってないですね。代々木公園は蚊が想定外の所にいたと、言い訳ばかりでした。デング熱に関する行政側の対応遅れ等々ありました。複雑に考えないで「ごめんなさい」と言えばいいものを「全部閉鎖しました」だからいいだろうというのが透けて見えます。でも今日の新聞を読んだら、何言っているんだかと思います。想定外という文章は書いてないけれども、説明文を読むと半径何メートル以内っていうのは藪の中では想定していません。蚊がこの辺にいたら良かったんだけど、ブーンと飛んできて想定外の動きをしたから、広がっていった。素直じゃないなと思いました。みな責任逃れ

の発表ばかりしている。どこかおかしいです。

判断基準でみていくと、知らず知らずの間に複雑化していく物事を理解したというのは単純に分析をする。

例えば、ここにペットボトルがあります。飲んで美味しいなと思ったら、それでいいじゃないと思う。そうしたら、この中にはナトリウム 0.444mg カリウムが 0.16mg 何でこんな表示をつけるようになったんだろうと思いますが、こういう解説を読んでも別に美味しいとは思わない。飲みたいとも思わない。買う時に、これ確か 30 円だったと思いますが、コンビニだと 108 円、スーパーで買うと 150 円 130 円 100 円と色々あり、バナナの叩き売り状態です。物によっては 25 円ぐらいのものもある。ということで、複雑に考えないで単純化して考えると、自分で水を買う時は、いくらぐらいで買おうか、それこそ自分の所の井戸水で取ればよいだろうとか、複雑にしないで単純に何で水を飲むのかと考えればよいでしょう。

最近、水についてこういう風に思っています。認知症になる人は、ペットボトル 1 本以内しか飲まないとよく聞きます。認知症になった人を調べると、毎日トイレに行くのが嫌なので 1 本以内で終わっている。

母親が認知症になりましたから、お医者さんに聞くとペットボトルの水 1 本以内しか飲まない人は、歩幅が狭くなりうつむき加減になって、足がちょっとしか動いていない。背筋を伸ばして歩幅を大きくして歩いている人は、ペットボトルの水 3 本は飲んでいる。認知症は嫌だと思ったら、飲む物の中に何が入っているかは別ですけども、3 本飲もうと思えばよいです。

同じ物を見て、単純化して自分の判断基準はこれだと決めると、いろいろな物の判断がどんどん具体的にみえてきます。

新聞記事を読んだ時に、自分の判断基準と照らし合わせをして、自分の行動によかれと思う動き、そういったものを取り入れる。そうお考えになるとよいと思います。

9 月 13 日土曜日の読売新聞です。IPS 細胞について世界初の記事がありました。世界の役に立つ動きが進んでいる、よいことは進んでいるなという感じはしましたので非常に結構だと思います。

最近お医者さんと話しをしていますと、人間としてあと百年ぐらい生きていれば今の病氣は、どんどん治っていくんじゃないかなという希望を感じさせていただきました。読売新聞でこの IPS についての説明が非常によいなと思いました。

西洋医学でお医者さんの動き方が限界にきた。限界にきたけれども更にまたそれを追求しようとする新しい壁にぶつかった。その壁とは、全然違う異次元から動き出している。西洋医学と東洋医学とが手を携えることによって、人類はしぶとく生き残るかもしれない。

そんな感じがしています。

それから他の記事で、デング熱について、舛添都知事が「蚊が媒介する感染症対策会議に厚生労働省担当の出席を求めたら」と書いてありますけれども、あちらこちらに広がっている。これみな想定外、想定外。たまたま原発で想定外という言葉が広がって、おもしろい現象だと思いますが、今これは想定外だらけです。自分が生きていく上において想定外でないことなんてありますか？想定外だらけという気がいたします。

昨日の新聞で「円安一時 107 円台」なんていうのが出ています。これから円安の話が出ると思います。国債のことを気にするのでしたら、同時に円安も気にし始めたらいいと思います。

これから国外の話で、今日の新聞で欧米がロシアの制裁強化を始めました。ウクライナ情勢をめぐって EU の通貨制裁がいろいろ書いてあります。これは何の事はない。ロシアが領土拡大、いやいや領地回復でしょかね。領土回復をしようとしている。同時に、昨日の新聞では「スコットランドがまっふたつ。欧米がロシアに制裁を強化する」という記事がありますが、みんな繋がっていますね。ロシアと中国が水面下で手を握ってお互いの領地回復。でも回復じゃなくて領地拡大です。領土紛争をあちこちで意識して両者はやっているわけですから。

スコットランドまっふたつは、これだけ読むとイギリス国内の話しにみえるけど、イギリス国内だけではないと感じます。瞬間的に思ったことは、沖縄の独立運動、独立の動きに火をつけたということでしょうか。水面下で何かやっている。何もしないでこういう話がどんどん出てくるわけがない。

中東に関するものにしても、みな領土。領土というより民族心というのかな。それぞれの国の民族に火をつけ自立する・独立する、という動きは世界的に煽っている人達がいると思います。それによって自分の利益になるようなことを考えている。そうみえてしょうがない。ですから日本の場合は沖縄ですね。独立したいという人達がいますから。

新聞も御覧いただくときに、自分自身の判断基準をお持ちになって読んでいくと分析できる。分析したものを御自分の判断基準でもう一度みるとそこで直感力が閃く。

我々はその結果として、総合的直観力を知らず知らずの間に身につけることが出来るということになります。

時間が参りましたので終了いたします。有難うございました。